



# 貪食細胞による 自己炎症疾患の発症機序

華山 力成 博士

金沢大学医薬保健研究域医学系免疫学・教授

平成28年3月17日(木)午後16:00-17:30

健康医科学イノベーション棟8階講堂

## 講演要旨

近年、マクロファージなど自然免疫の研究の発展に伴い、免疫病は獲得免疫の異常による従来の自己免疫疾患だけではなく、自然免疫の異常による自己炎症疾患という新たな観点から疾患概念が再定義されている。マクロファージは免疫の要となる細胞で、病原体や死細胞、自己成分などを貪食し除去するが、その後のマクロファージの応答として、これまでは免疫活性物質や抗原提示による獲得免疫の活性化機構が盛んに研究されてきた。一方、マクロファージは生細胞の血球貪食やリソソーム酵素の放出を介した他者融解により直接的に組織傷害を引き起こす。そこで本セミナーでは、私達が自己炎症疾患の解明に向け取り組んでいる、血球貪食や他者融解を介した組織傷害の発症機序と、分泌膜小胞エクソソームによる貪食細胞の制御機構について紹介する。